



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(3)

【概要】

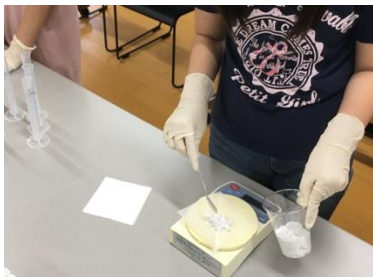
令和3年7月9日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて化学部門 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度3回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。

令和3年度第3回は7月9日(金)に理工学部化学部門 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生が、「身近な水を分析してみよう!」と題して、有機物による汚濁状況の代表的な指標である化学的酸素要求量（COD）を測定するための試薬を調製して水質検査する理科実験を行いました。

まず、COD の測定キットを水酸化ナトリウムや過マンガン酸カリウムを用いて作成しました。劇薬を使うので、子どもたちは保護メガネにゴム手袋を着用して、慎重に試薬を混合して調製を終えました。海水、ため池の水、牛乳などの飲料を千倍に希釈した試料など17種の試料を予め用意していましたが、これらに加えて、身近な水ということで、教育支援センターで飼育している金魚やグッピーの水槽の水、水道水、そして当日は雨であったため雨水などを、子どもたちが積極的に周囲からサンプリングしました。調製した試薬で COD 測定を行ったところ、飲料を千倍に希釈した試料は COD の値が高く、薄めても魚には住みにくい汚れになることに驚いていました。自分たちでサンプリングした試料に特に興味が高く、水槽の水はどれも魚の生育には適した COD 値であることを確認して納得していました。全ての試料を確かめようとする子どもたちの姿勢は大変素晴らしく、生活排水に対する理解も深まったようです。



「理科実験教室」の様子